

佳作

去年と比べて変わった僕

香川県 高松市立高松第一中学校二年 香川 新乃輔

「母さん母さん、中二も半分終わったけど今の僕と去年の僕って何か変わった所ってあるかな？」

と母に聞いてみた。すると母は首をかしげながら：

「そやなあ、知らんまに母さんの背も抜いたし、体も大きくなって声変わりもしたしなあ、せやけど一番変わったんは反抗期に突入してかわいげがなくなっただけな所かな。思春期ボーイは扱いはなくてホンマ大変やし腹立つわ。それになあ。」

反抗期になった僕への不満が母の口からまるで底が無いのかのように出てくるのに何だかイラッときたので少し話題を変えて、

「じゃあさ、逆に去年の僕と今の僕で変わってない所って何かあるかな？」

と聞くと、再び首をかしげたかと思うと、母さんお得意のマシガントークが炸裂し始め、僕は心の中

で、「あつ、やばい、これは絶対長くなる」と思ったけれど時すでに遅く、母は話し出してしまった。

「んー、変わってない所なあ。思春期になってもまあ母さんどうしゃべってくれる所かなあ。そこはホンマちよつとうれしい所かもー。」

とニヤニヤしながら話をしている顔を見て僕は

「他には何か無い？」

と、母さんの話を更にそそるようにして母さんの機嫌を取り始めたのである。

「悪い所ばかりやなあ、例えば人を当てにする所、他力本願で楽ばかりしようとする所。言い出したらきりが無いわ、そういうとこ小さい時から全然変わってない。あんたの悪い所やわ。ここまて言われたら腹も立つやろ。」

と言ってきた。だから僕は、

「じゃあ母さんは僕に、どんな人になって欲しいん？」

と聞くと母さんは、

「自分で考えて行動できる人になって欲しい。」

まただ、お母さんはこういう質問をすると必ずと言っていいほどにこんな答えばかり返してくる。

正直母さんからのこの答えには少しイラッときて

つい、にぎりこぶしが出来てしまった。母親というものは、いつも怒ってきては僕の自由をうばってくる厄介な人だが、何だかんだ言っても僕の身の回りの事をしてくれる。何か僕が失敗してもいつも僕の事をかばってくれる。怒ってけんかしても最後は仲直り出来る大切な人だ。いつもいつも僕のことを大切にしてくれるお母さんの心はとても広いなと思っただ。

「母さん、僕は母さんの思うような生き方が出来るかどうか自信はないけれど、母さんが僕に言ってくる小言はちゃんと胸には刻んであるから、そんなに心配しないでいいよ」と僕は心の中でつぶやいてみた。